



高橋教授の

この人に 会いたい

Vol.92

ゲスト

山本伸一

氏 一般社団法人日本作業療法士協会会長

医療、介護、福祉はもちろん、予防的な働きかけや社会復帰の支援、学校での教育支援など、幅広い役割を担う作業療法士(OT)。高齢化が加速するなか、住み慣れた場所で自分らしく生きたい人を支援するOTが活躍する領域はますます広がりをを見せている。一般社団法人日本作業療法士協会の山本伸一会長を迎え、OTのあるべき姿、取り巻く環境の現状と課題、今後求められる役割などについて論じ合った。

自分らしく生きるためのパートナー OTが「人生100年時代」を支える

応用的動作に焦点を当てる
「できない」を「できるように」

高橋 今回は日本作業療法士協会の山本会長と、高齢者の在宅復帰支援や今後の作業療法の方などについて論じたいと思います。よく指摘されますが、作業療法士(OT)と理学療法士(PT)の違いを十分に理解していない医師も多いようです。

山本 OTは1965年公布の理学療法士及び作業療法士法により誕生したりハビリテーション専門職です。ともに歩むことになった

OTとPTは兄弟のような職種と言えるでしょう。「立つ、歩く、寝返る」など基本動作にかかわる理学療法に対し、作業療法は基本動作を使い、生活のなかに組み込んでいく役割で、応用的動作、言い換えれば社会適応能力に焦点を当てます。さまざまな道具を駆使し、身体機能や環境的な側面から、その方の「できない」を「できるようにする」支援にかかわります。

高橋 OTについては印象深い出来事があります。2017年に、骨折した義母がリハビリのため、私と旧知の仲井培雄先生(地域包括



ケア病棟推進協会会長)が理事長を務める石川県能美市の芳寿記念病院に金沢市の急性期病院から転院しました。入院初日に、OTの方から「できるだけ早く、お宅を拜見したい」と言われました。能美市から金沢市までの距離を考えれば、確実に半日は潰れます。コロナ以降、退院前訪問指導が普及してきましたが、当時はまだ珍しかったので、正直驚きました。

山本 リハビリテーションは生活の再建です。その方が発症後にどういう暮らしをしていくのか、どんな場所で、どんな方と一緒に過ごすのかといったことをOTがしっかりと評価し、入院生活にそれを組み込んでいくことが重要です。

最近では多くのリハ病院において、早期に自宅を訪ね、住環境、玄関からの動線、寝室、お風呂、トイレなどの状況を調べるのが当たり前になってきました。

高橋 入院の翌々日、OTとMSWが、確かに金沢市内の義母宅を訪ねて来られました。

山本 私も訪問指導を何度も経験しています。麻痺あり寝たきりに

なった患者さんが急性期から回復期に移り、とても自宅に帰れる状態ではないとき、「さあ、お宅を見せてください」と言っても家族はなかなか受け入れられません。「座ることも立つこともできないのに、なぜ家を見に来るのか」と叱責されたこともあります。それが将来的に患者さんに必要なことを丁寧に伝え、ご理解いただいています。

トイレ、風呂の訓練に1時間かけることも

高橋 住まいの状況などを確認することによってアウトカムはどのようになりませんか。

山本 今、何のためにこの訓練をしているかが明確となります。たとえば、玄関を入ったところにある段差の高さがわかれば、その段差を乗り越えるためにどんな訓練をすべきか、目標がはっきりします。目標がはっきりすれば、モチベーションも上がり、結果がつけられます。

高橋 訓練の時にモチベーションを上げることは、大切ですね。義母

撮影=関口宏紀



山本伸一

Shinichi Yamamoto
一般社団法人
日本作業療法士協会会長
やまもと・しんいち●1987年、愛媛十全医療学院作業療法学科卒業。同年、医療法人財団加納岩山梨温泉病院(現山梨リハビリテーション病院)入職。2001年、日本作業療法士協会の理事に就任。常務理事を経て17年、副会長。23年から現職。学校法人健康科学大学評議員、山梨リハビリテーション病院名誉副院長。著書に『活動分析アプローチ』(青海社)ほか多数

あったとしたら、お風呂やトイレのみで1時間訓練を行うことも珍しくありません。環境因子、個人因子が、身体機能と同じくらい重要な因子となります。

高橋 これから増える団塊の世代の高齢者は、自分の思い通りに生きようとする自我の強さを持っています。特に、トイレでの排泄にこだわると思います。そうした方が自力でトイレに行ける能力を維持するために必要なものは、機能低下の早期発見、PTやOTによる早期介入、環境整備だと思っています。

山本 確かに、団塊の世代はご自身の考えをしっかりと持っていらっしゃると思います。これまでの世代とは異なり、自分の考え、やりたことを必ず実行に移す高齢者が急激に増えていることは、私たちの肌感覚としてもありますね。

新たに5歳児検診にも参画
高齢者に加え、子どもも支援
高橋 おそらく、トレーニング好きの方たちが多いので、プレフレイルになってきたら、チョコザップ(ChocoZAP、24時間営業

者だけではなく、子どもの支援にも力を入れていきたいと考えています。
もう1つは、終末期の看取りにOTがかかわることです。緩和ケア病棟にOTが入ることは重要だとずっと言い続けてきたのですが、実際に配置されるケースが増えてきました。たとえば、子どもと一緒に料理をしたり、趣味を楽しんだり、心理的な要素を踏まえ、介入しています。また在宅の看取りでも作業療法士は増えてきています。また、在宅での介護予防も生活行為とバランスよくかわればと思います。

高橋 今のお話を聞いて、日本作業療法士協会の元会長で本学の副学長を務めた杉原素子先生が「OTは外に出ていくべきだ」とおっしゃっていたことを思い出しました。団塊の世代に応じた医療、ケアを実践していくうえで、OTの役割がますます重要になってくるのは間違いありません。山本会長の手腕に注目しています。
本日は、ありがとうございます。

活動領域はますます広がる

——山本

の場合、OTが家での自立した生活を強く意識させてくれたこと、担当の療法士がイケメンだったことで訓練の意欲が上がりました(笑)、メキメキ機能が回復しました。入院時寝たきりに近かったのが、自分で入浴やトイレでの排泄ができるようになった。意欲的なりハビリは、効果てきめんです。

山本 回復期リハビリテーション

病棟では、入院日前7日以内または、入院後7日以内に入院時訪問指導加算が算定できることから、今ではその意識も高まっています。

高橋 国も、自宅復帰支援の重要性を認め、診療報酬で後押ししたのだと思います。

高橋 地域医療構想の見直しで、高齢者救急と在宅医療の重要性が強調され、今後「医介連携」を進

のコンビニジム)が作業療法になるのではないかと思います(笑)。いずれにせよ、自分の生き方は自分で決める思いが強いため、OTのパートナー的な意味合いは非常に大きいでしょう。

山本 OTの分野で言えば、認知症が国民の大きな関心事になっていることを踏まえ、日本作業療法士協会としても認知症のリハビリ

テーションを推進しています。認知症に対する作業療法という意味では、その方が馴染んでいる趣味やスポーツを行うことにより、感情がコントロールされ気持ち落ち着くといった効果があります。現在は、▽環境整備、▽動作の反復練習、▽介助指導——の3つを主軸としたリハビリテーションを訪問リハで進めています。

OTも「団塊の世代」シフトへ

——高橋

高橋 最後に、日本作業療法士協会として力を入れていくこと、トピックを教えてください。
山本 1つは健診です。4分野(身体障害、精神障害、発達障害、高齢者)のうち、発達障害に関してはOTが主軸として動いています。検診は1歳児、3歳児は全1724市町村で実施している一方、5歳児健診は22%程度しか実施できていませんが、2023年12月、OTと言語聴覚士が新たに5歳児健診に参画することが認められました。就学前健診をして、どんな課題があるか、スクリーニングを行い、課題を就学前に解決できる側面があります。これらの活動がひいては学校作業療法につながっていくはずで、今後は高齢

高橋 泰

Tai Takahashi
国際医療福祉大学教授
たかはし・たい●1986年、金沢大学医学部卒業、東京大学病院第1第3第2内科・麻酔科で研修。92年、同大学医学部医学系大学院医学博士課程修了(医学博士)後、米国スタンフォード大学に留学。94年、ハーバード大学公衆衛生校に武見フェローとして留学。97年4月、国際医療福祉大学医療福祉学部医療経営管理学科教授。2016年9月より21年3月まで安倍内閣未来投資会議の構造改革徹底推進会医療福祉部門副会長を務めた